

オウム  
真理教  
対策  
住民  
協議  
会  
ニ  
ュ  
ー  
ス

烏山地域  
オウム真理教対策  
住民協議会

第9回

リ サ イ ク ル

新品  
いっぱい  
バザー

4月11日(土) 午前10時

烏山区民センター前広場

(雨天の場合は3階会議室とセンター前広場テント内で行います)

14年間活動を続けてきた  
住民協議会にご協力  
をお願いします。

物品提供  
お願いします

初めての提供  
大歓迎です

オウム真理教対策住民協議会が行う、リサイクルバザーも9回目を迎えます。オウム真理教の「解散・解体」を目標に続けてきた活動も15年目に入り、未だに不穏な活動を続けるオウム信者から目を離す事が出来ません。私たちは年2回の抗議デモと学習会、毎月の協議会ニュースの発行、毎日のオウム施設の監視活動などを、皆様からの募金で行っています。

このような活動を続けるために、リサイクルバザーの売上げは活動資金として住民協議会を支えています。今年もバザーの売上げで、住民協議会の活動が続けられますよう、ご協力をよろしくお願い致します。

1) 物品受付日時と場所

- 3月23日(月) 午前10時~12時 烏山総合支所 1階第1会議室
  - 3月26日(木) 午後1時~3時 烏山区民センター 3階集会室
  - 4月 2日(木) 午後1時~3時 烏山区民センター 3階集会室
  - 4月 7日(火) 午後1時~3時 烏山総合支所 1階第1会議室
- ※駐車場は烏山総合支所にあります(車高・車幅等制限あり)が、烏山区民センターにはありません。

2) 受付物品

- 日用品(石けん、タオル、シーツ、陶器類、乾物類など)
  - 衣料品(子供服、婦人服、紳士服など新品、あるいはクリーニング済みのもの)
  - 雑貨(アクセサリ、玩具、ハンドバッグ、靴、時計など)
- ※物品によってはお受け出来ないものもあります。  
※陶器類・靴は新品に限ります。ご了承ください。

●お問い合わせ：03(3326)1202(烏山総合支所内事務局)

あの日の朝 池亀弘子さん

寄稿

毎年、住民協議会へ募金などで運動の支援を行ってきた池亀さんは、事件当日の恐怖体験を封印してきたが、サリン事件も20年目となり、オウム真理教事件の風化を恐れ寄稿していただいた。

いつも通り、夫と二人京王線の通勤電車に乗った。夫は直通で新宿へ。私は都営地下鉄新宿線へと別れた。地下へ入り新宿を過ぎると再三電車が急停止した。その度に「日比谷線で発煙」「霞ヶ関で異臭」「小伝馬町で病人」と緊張した放送がある。営団線(当時)とは会社が違うのに何故? 時々暗くなる満員電車の中で、不安と恐怖が募る。10分遅れで浜町駅に着き25階の職場へ走った。8割が来ていた。JR新日本橋利用の人が多く、25階からは、消防・警察がサイレン大音量で走り、ヘリコプターは喧しい。当時、携帯電話は未だ普及しておらず、職場にはテレビがない。江戸川区に住む両親の家へ電話をかけた。「お母さんテレビつけて! 今何が起きてる?」私は声高になっていた。母も叫ぶ。「政府もまだ把握していない。小伝馬町と霞ヶ関が被

害者が多いみたい。」小伝馬町は徒歩圏内である。そして霞ヶ関には妹がいる。慌てて妹の名刺を出し、会社へ電話する。ややあって妹が出た。「あ、生きていた?」冗談のつもりだった。冗談ではないと知ったのは、24階の昼休憩の時間のテレビだった。聖路加病院が廊下や教会にまで負傷者を受け入れた事、松本サリンを診察した医師が、サリンだろうと提言した事も報じていた。歴史には、たればは無いが、もし坂本弁護士一家事件に早く取り組んでいれば、松本サリンの時に一高校生が見た「白い服を着た団体」の事を入念に調べていれば。そして当時、海外メディアが伝えた「これは大都会でサリンを撒く実験だろう」更に某新聞がスクープした、上九一色村のオウム真理教の巨大プラントがある、が捜査されていれば。そして程なく、わが町にオウム信者が大挙して住み着き、千歳烏山は全国に名を轟かすことになってしまった。今までは被害者ではない私は口を閉ざしてきた。しかし、この事件の風化を恐れ、ペンを執った次第である。

## 地下鉄サリン事件から20年

### 信者は命の重みに鈍感になった

1995年3月20日午前8時頃、地下鉄千代田線、日比谷線2路線、丸の内線2路線の計5路線で、ほぼ同時に猛毒サリンが撒かれ、車内に異臭が充満した。乗客は異変に気づいたが、何が起こったか分からず、早朝のラッシュアワーと重なり車内は騒然となった。ホームに横たわる人、階段に倒れる人で、ホームや階段は大混乱となり、地上でも多くの人が呼吸困難に陥り、路上に横たわる状況が随所で見られた。犯行は、教団結成以来数々の殺人事件を引き起こしてきたオウム真理教によるもので、近日中に強制捜査があるとの情報を入手した教団が、捜査を攪乱する目的で行ったと言われている。サリンが撒かれた地点はより多くの人々が集中する時間と場所を想定し、首都の中核圏々周辺が選定された。首謀者は元教祖死刑囚麻原彰晃で、実行には幹部信者や一般信者が関わった。この事件により、13人が死亡6000人以上が重軽傷を負い、後遺症に苦しむ人、今なおベッドから起き上がれない人もいる。その年の5月、オウム真理教の拠点、山梨県上九一色村（現河口湖町）のサティアンに警察による強制捜査が行われた。だがオウム真理教の殺害事件はこれだけではなく、信者の監禁殺害、坂本弁護士一家殺害、松本サリン事件、公証役場事務長殺害など合計30人以上を殺害、その他弁護士やジャーナリストなどへの襲撃事件もあり「宗教」を隠れ蓑に殺人を正当化する集団となっていた。

### オウム真理教はなぜ殺人集団に転落したのか？

一時は10000人以上の信者を擁し、有名大学に在籍した信者も多かったが、その高学歴ゆえの弱点を教祖麻原に巧みに利用された。信者の多くは、まだ育たぬ未熟な社会性と、上意下達の仕組みの中で、物事を客観的に判断することを抑制されていった。麻原の命令は絶対で、背けば罰が与えられるという恐怖心と、オウム真理教の教義「人を殺すことはその人間を救済しより高みに導く」を修行として実践した。さらに信者は麻原に認められたい一心で修行に

励み、自らの階級を上げることに心血を注いだ。奇妙なことに、幹部信者は麻原に取り入ることに執着し、麻原に様々な情報を競って進言するようになっていった。このような教祖と信者の関係は「宗教団体」では稀有なことで、教団という縦社会のなかで、絶対的強制と服従そして保身のため協力と言う、軍隊を彷彿させるような関係を築き上げ、教祖と共に一層先鋭的なテロ集団となっていた。

### 地下鉄サリン事件以降世界中で殺人・テロ行為が頻発する

地下鉄サリン事件は、当時国の内外を問わず人々を震撼させた事件であったが、それ以降目を追ってテロ行為が頻発に発生するようになったのは偶然だったのか。国内ではテロ行為こそ起きなかったが、2000年世田谷一家殺害事件、2001年大阪池田小事件、2008年秋葉原通り魔事件など、命を弄ぶ事件が続き、国外では、パキスタンのエジプト大使館爆破、カイロ博物館で観光バステロ事件、エジプトで観光客へのテロ事件、キルギスで日本人誘拐事件、モスクワでアパート爆破事件、そして2001年9月アメリカの世界貿易センタービル爆破へとエスカレートしていった。それ以降、テロへの報復と声高に叫ぶ大国も加わり、争いは一層激しさを増し、民主化運動や宗教間の紛争も加わり、中東・アフリカのみならず世界中で争いは泥沼化している。「テロとの戦い」「テロを許さない」という言葉が9.11以降盛んに使われるが、一方が力で押さえ込もうとすれば相手は反撃し、結果は暴力と暴力の争いとなり、その国に暮らす人々を疲弊させ、不毛の戦いとなることは明らかだ。近頃の命の軽視も気になるが、意見や考えを威圧的な発言や暴力で抑える傾向が強くなってきたことに危うさを感じる。国の歴史や慣例、人々の考えや宗教を尊重し、冷静で穏健な話し合いで解決できる良識ある人々、国々が増えることを望みたい。私たち一人々も、特定の意見に影響されることなく、思慮深く自らで正しい答えを導き出すスタンスが、より大切な時代になってきたように感じられる。

## パンフレット「こんな勧誘にご用心」が世田谷の大学生に配布されます

オウム真理教を知らない若い世代が増える中、住民協議会では、毎年区内大学の新生向けに「日本脱カルト協会」が発行しているカルトの勧誘を防ぐためのパンフレット「こんな勧誘にご用心」を購入し、配布しています。

今年も11大学から約1万4千部の申し込みがありました。パンフレットは、新生に配布できるよう3月中旬頃までに各大学に届けます。

### 各大学別の配布部数（順不動）

東京医療保健大学 500部、国士舘大学 3,500部、駒澤大学 4,200部、産業能率大学 30部、昭和女子大学 1,700部、成城大学 1,500部、多摩美術大学 100部、日本女子体育大学 600部、日本大学商学部 1,600部、日本大学文理学部 100部、東京都市大学 100部

## 住民協議会活動報告

2月15日（日）	粕谷子どもまつり会場で募金活動	3月2日（月）	協議会ニュース143号再校正
2月20日（金）	住民協議会	3月5日（木）	事務局会議
2月23日（月）	協議会ニュース143号初校正	3月7日（土）	若返り桃まつり会場で募金活動
2月27日（金）	烏山・給田地区合同新年会で募金活動	3月9日（月）	協議会ニュース143号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。